

【薬学部 臨床薬剤学講座】薬学部 5 回生 爲石 麻友香さんが
筆頭著者の論文が *Pharmaceuticals* 誌に掲載されました。

妊娠性絨毛腫瘍に対するがん免疫療法の開発につながる可能性を提唱！

本学薬学部 5 回生 爲石 麻友香さん（臨床薬剤学講座 所属）が筆頭著者として執筆した論文（英文）が、国際的学術雑誌 *Pharmaceuticals* 誌（Impact Factor 5.863）に掲載されました。

本研究において爲石 麻友香さんは、妊娠中または妊娠後の子宮に発生する婦人科系希少がんであるヒト妊娠性絨毛がん細胞を用いた実験を行い、細胞内の“足場”タンパク質 Ezrin が、免疫チェックポイント分子 Programmed Cell Death Ligand-1（PD-L1）の細胞表面局在に寄与することを明らかにしました。本研究成果により、妊娠性絨毛腫瘍に対するがん免疫療法の開発において、PD-L1 の足場タンパク質 Ezrin が新たな治療標的の一つとなる可能性を提唱しました。

なお、本研究は本学薬学部臨床薬剤学講座と天然薬物学講座の共同研究によるものです。

爲石 麻友香さんのコメント：

『様々な実験を行って行く中で、思うような結果が得られず落ち込んだ時もありました。しかし、条件を変更して何度も何度も実験を繰り返し、予想した結果が得られた時はとても嬉しかったです。多くの実験をしてきた中で最も印象に残っているのは、細胞内の標的タンパク質を蛍光染色する細胞免疫蛍光染色という実験で、どのような結果になるかいつもドキドキしながら行っていました。最新鋭の共焦点顕微鏡で観察し、標的タンパク質が綺麗な蛍光色で染まった画像を得られた時は、とても感動しました。また、初めての論文執筆は困難の連続でしたが、先生方や友人と議論し、励まし合いながら完成させることができました。毎回の実験結果について考察し、さらに論文としてまとめる過程を経験することで、筋道を立てて物事を考える思考力が鍛えられたと感じています。先生方や友人と協力して完成させた研究成果を世界へ向けて発信することができ、嬉しく思っています。』

【掲載論文の情報】

雑誌名：*Pharmaceuticals* 2021, 14(10), 963. <https://www.mdpi.com/1424-8247/14/10/963>

タイトル：

Contribution of Ezrin on the Cell Surface Plasma Membrane Localization of Programmed Cell Death Ligand-1 in Human Choriocarcinoma JEG-3 Cells.

著者：

Mayuka Tameishi¹, Takuro Kobori¹, Chihiro Tanaka¹, Yoko Urashima¹, Takuya Ito², Tokio Obata¹

¹ Laboratory of Clinical Pharmaceutics, Faculty of Pharmacy, Osaka Ohtani University, Tondabayashi, Osaka 584-8540, Japan

² Laboratory of Natural Medicines, Faculty of Pharmacy, Osaka Ohtani University, Tondabayashi, Osaka 584-8540, Japan

問い合わせ先（研究に関すること）：

薬学部 臨床薬剤学講座 准教授 小畑 友紀雄

E-mail: obatatoki*osaka-ohtani.ac.jp(*を@に置き換えて下さい。)